

令和5年度

ファカルティ・ディベロップメント  
推進委員会活動報告書

令和6年3月

兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

# 令和5年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書

## 【目次】

I	令和5年度FD活動の概要	1
	1. 令和5年度の活動概要	1
	2. FD活動に関するウェブサイト更新	2
	3. いつでもどこでもFD	2
	4. Webアンケート形式による授業評価実施	2
	5. ベストクラスの選定・公表	2
	6. アクティブ・ラーニング研究会の実施	3
	7. 学生・教職員FD活動交流会の実施	4
	8. 今後の課題	4
II	第4期中期目標・中期計画及び令和5年度年度計画	7
III	令和5年度の主なFD活動一覧	8

## I. 令和5年度FD活動の概要

### 1. 令和5年度の活動概要

今年度は、本学の主なファカルティ・ディベロップメント（以下FD）活動である、学生・教職員FD活動交流会、学生による授業評価、ベストクラスの選定、授業公開に加えて、以下のFD活動に取り組んだ。

第1に、FD活動に関するウェブサイトの更新である。情報発信力の向上を企図して、ウェブサイトのトップページにお知らせ機能を新たに追加した。これにより、最新情報や重要なお知らせを分かりやすく発信することが可能となった。

第2に、「いつでもどこでもFD」制度の開始である。これは、学内で日々、主に教員によって自律的に行われているFD活動を、FD推進委員会が支援することで可視化する制度として、今年度から開始したものである。この制度により、野火的にFD活動が展開する風土を学内に醸成し、教育の質保証に寄与することが期待される。

今年度は、FD推進委員会を3回開催した。各回の主な議題は、次のとおりである。

#### FD推進委員会における主な議題

第1回	令和5年度学生・教職員FD活動交流会について ベストクラス選定科目の授業公開について 令和5年度前期授業評価について 令和4年度後期「学生による授業評価」における自由記述について
第2回	令和4年度開講授業科目におけるベストクラスの選定について ベストクラス選定科目の授業公開について 令和5年度後期授業評価について 教職大学院実習科目授業評価の実施について
第3回	学生による授業評価にかかる名称の変更について 令和6年度学生FDパートナーの選出について 令和5年度FD推進委員会活動報告書の作成について

## 2. FD活動に関するウェブサイト更新

FD活動に関するウェブサイトは、「FD活動に関するWeb ページ更新の基本方針」を策定した令和3年度以降、継続的に更新を行っている。

具体的には、令和3年度にビジュアルデザインを決定し、令和4年度にリニューアル公開した。さらに令和4年度には「Teaching and Learning Tips」システムの構築を進め、今年度よりシステムの利用が可能となった。「Teaching and Learning Tips」とは、既存資源の再利用をねらい、これまでに蓄積してきたFDに関する様々な資料を、データとして検索することを可能にしたシステムである。加えて、今年度はトップページにお知らせ機能を新たに追加した。デザインは既存のビジュアルデザインを踏襲しており、最新情報や重要なお知らせを分かりやすく発信することが可能となった。

また、本ウェブサイトを通して、学生・教職員FD活動交流会で出される数多くの実りある提言や示唆といった学生FDパートナーの声を発信し、ウェブサイトを学生FDパートナーの思いに応える場としていきたい。

引き続き、ウェブサイトを「育てていく」という発想に立ち、教職協働、学生参画のもと取り組みを推し進めていく。

## 3. いつでもどこでもFD

本学の教員が主となって自立的に行うFD活動を、FD推進委員会が支援する制度として、今年度から「いつでもどこでもFD」を開始した。今年度の実績は1件であったが、今後も引き続き支援を行うことで、野火的にFD活動が展開する風土を学内に醸成し、教育の質保証に寄与することを期待する。今後は、より多くの方に制度を利用してもらうため、積極的にアピールし、本制度の認知度を高めていきたい。

## 4. Web アンケート形式による授業評価実施

今年度も、昨年度に引き続き、Web アンケート形式（授業評価システム）で授業評価を実施した。教職大学院実習科目の授業評価についても、昨年度同様、Web アンケート形式（Microsoft Forms）で実施した。

## 5. ベストクラスの選定・公表

ベストクラスの選定については、令和4年度に開講された授業科目を対象に、学生・教職員FD活動交流会での選定及びFD推進委員会での審議を経て、12科目のベストクラスを決定した。ベストクラスの選定にあたっては、学生による授業評価の評価項目の平均値が3.5以上の授業科目を対象として、授業規模、授業形態、履修年次、科目区分を考慮に入れ、学部、修士、専門職学位課程の授業の中から、自由記述をもとに12科目程度に絞り込んだ。その後、学生・教職員FD活動交流会のメンバーが、授業担当者、受講学生へ授業についての聞き取り調査を行い、最終的にベストクラスを決定した。

また、決定したベストクラスについては、12月開催の教授会で共有するとともに、FD活動に関するウェブサイトに選定理由書を添えて公表した。

## 6. アクティブ・ラーニング研究会の実施

今年度は、前期に令和4年度ベストクラス選定科目から3科目、後期に令和5年度ベストクラス選定科目から1科目の授業公開を行い、教員間の相互研修の場を設けた。

	開催日	授業担当教員	科目名称・テーマ	参加者数
第1回	2023. 6. 8	隈元みちる	包括的児童生徒支援に関する事例研究（夜間クラス）	5名
第2回	2023. 6. 15	宇野 宏幸	特別支援教育リーダーのための創発的コミュニケーション	8名
第3回	2023. 6. 19	森田 啓之	初等体育（②クラス）	5名
第4回	2024. 1. 25	石倉 健二	グローバルスタディーズⅡ	5名
第5回	2024. 2. 1	石倉 健二	グローバルスタディーズⅡ	5名

さらに、先端教職課程カリキュラム開発センター（C-TEX）学習観転換科目開発チーム・FDデザインチームとFD推進委員会が共催して11月17日（金）にCReATE Seminar【「読んでいなくても参加できる」読書会】を開催した。

開催日	課題図書	参加者数
2023. 11. 17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森 敏昭（監修）藤江康彦・白川佳子・清水益治（編集）『21世紀の学びを創る—学習開発学の展開—』北大路書房</li> <li>・大島 純・千代西尾祐司（編）『主体的・対話的で深い学びに導く学習科学ガイドブック』北大路書房</li> </ul>	26名 ※オンデマンド参加者を含む

## 7. 学生・教職員FD活動交流会の実施

学生・教職員FD活動交流会の主たる活動である、ベストクラス候補となる授業科目の選定については、前年度に見直した選定過程に基づき活動を進めた。特に、ベストクラス選定の作業時間をこれまでの30分から80分に増加し、さらに班の中で役割分担を明確にするよう見直したことで、例年よりも十分な議論の時間を確保することができ、円滑に選定作業を行うことができた。

また、今年度は例年よりも公募による学生FDパートナーへの申込みが多数あり、1年間を通して多くの学生とともに活発な活動を行うことができた。

なお、今年度は、学生・教職員FD活動交流会を4回開催した。各回の主な内容は、次のとおりである。

### 学生・教職員FD活動交流会における主な内容

第1回	任命証交付式 学生・教職員FD活動交流会及びベストクラスについて趣旨等の説明 班分け及自己紹介 ベストクラス選定作業（1回目）
第2回	ベストクラス選定作業（2回目） ベストクラス候補について発表
第3回	ベストクラス候補の選定、意見交換（ベストクラスの選定過程等について）
第4回	意見交換（授業評価の名称変更について、学生・教職員FD活動交流会に参加した感想・意見等について）

学生FDパートナーの募集に係るポスター作成について特記しておきたい。例年、このポスターは、FD推進委員会が作成してきた。今年度は、新たな試みとして、デザインを得意とする学生にその作成を依頼することにした。出来上がったポスターを資料編に掲載しているが（資料編；「学生FDパートナー募集ポスター」（p.23）参照）、これまでとはまったく異なるものに仕上がっている。この魅力的なポスターにより、学生が学生・教職員FD活動交流会の活動に関心を示すきっかけになるに違いない。このたびの試みは、本学に在籍するデザインに興味をもつ学生にも作品発表の場を提供するとともに、本学のFD活動のポイントである「学生参画」の新たなかたちとしても位置づけることができよう。来年度以降も、この試みを継続していくことにしたい。

## 8. 今後の課題

ここでは主な課題として、次の3つを取り上げて明記しておきたい。

### (1) 新たに開始した仕組みの利用促進

今年度から「Teaching and Learning Tips」と「いつでもどこでもFD」という新たな仕組みをスタートさせた。どちらも、大学教育の質向上のための仕組みとして機能することが期待されるものであり、FD活動の実質化に貢献するものである。ただし両者とも、利用実績の向上が課題となる。前者については、どれほどのアクセスがあるのか、正確に把握できておらず、後者についての今年度の申請（給付決定）は

1 件のみであった。これらの仕組みについては、FD活動に関するウェブサイトや教授会等において学内周知を図っているところだが、浸透していない可能性も高い。したがって、今後、どのような機会にどのようにアナウンスメントすることが有効か、検討を重ねたうえで、利用促進に努めていきたい。

## (2) 授業公開（アクティブ・ラーニング研究会）への参加促進

今年度の授業公開（アクティブ・ラーニング研究会）への参加者数は、いずれの回も5名程度であった。終了後に実施したアンケート調査の結果は、どの回もきわめてポジティブで、授業公開が有意義な取り組みであることを示していた（資料編；各回「授業公開アンケート集計結果」（pp.8-14）参照）。この課題は昨年度から継続するもので、今年度も周知に努めたが、参加者数に改善は認められなかった。公開される授業の参観が教員個々の授業改善に資すると措定される限り、参加の促進は取り組むべき課題となる。授業公開の意義や開催の方法等について、あらためて検討し直す時期に来ているといえるのかもしれない。

## (3) 「学生による授業評価」の再検討

『令和3年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書』の「(7) 今後の課題」（p.5）には、次のとおり明記されている。

第1に、「学生による授業評価」にかかる検討である。本学は平成29年度に授業評価項目を改訂し、平成30年度からその項目によって授業評価を実施している。『平成29年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書』には、「ベストクラスの趣旨が教員と学生がともに作り上げる授業としているため、学生による自己評価項目を入れた点に今回の改訂の特徴がある」（p.8）と記されている。平成30年度末には、学部生と大学院生を対象に『学生による授業評価』に関するアンケートが実施され、改訂された授業評価項目の内容や実施方法等について意見が聴取されている。そこでは、改訂に概ね肯定的な反応が得られていたが、いくつかの課題も指摘されていた（詳細は『令和元年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書』（pp.11-13）参照）。たとえば、自由記述の充実、中間評価やオンラインでの実施の可能性などであった。なかには、授業評価の意味について問い直しを求める意見も寄せられた。こうした学生からの指摘に加えて、アクティブ・ラーニングのいっそうの充実やオンライン授業の拡充等、今般、大学教育に求められる状況が大きく変化していることが、「学生による授業評価」についての検討を後押しすることになる。

今後、吟味されることになる論点を例示しておこう。

### (1) 授業評価の意味の再構成

### (2) 授業評価の実施方法

#### ①記名化

#### ②中間評価の実施

とりわけ「(1) 授業評価の意味の再構成」について、説明を加えておきたい。これは、前記した「学生による自己評価項目」というねらいをいっそう進めるものにほかならないのだが、「授業評価アンケートに回答する」という行為自体を学生の学びのプロセスの一つに位置づけるものであり、授業評価をいわゆる「学習としての評価（assessment as learning）」とすることを企図してのもの

である。

なお、『令和4年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書』の「2.『学生による授業評価』の検討」(p.2)でも、同様の指摘がなされている。

その後、コロナ禍を経て、オンライン授業がごく一般的なものとなり、それに伴ってこれまでとは異なる多様な授業展開も可能になるなど授業や学習の環境は著しく変化したが、授業評価項目の内容や実施方法については、従前のままである。

今年度第4回学生・教職員FD活動交流会において、「学生による授業評価」にかかる論点（「学習としての評価」という考え方、それに伴う名称の変更、中間評価の実施等）について、学生パートナーと意見交換を行った。その結果、『学習としての評価』という考え方に賛同する「授業評価をなんのためにやっているか」といった意義を説明することに力を入れたほうがよいのではないか」「教員にとっても授業の途中であれば改善に繋げやすいのではないか」「授業評価の名称については、学生がどれだけ学んだかを評価するという表現にするとよいのではないか」（資料編；「第4回 学生・教職員FD活動交流会の実施結果について」(p.20)参照)などといった意見が寄せられた。

コロナ禍が終息に向かい、対面、オンライン、ハイブリッドと多彩な授業形態が浸透し、学生パートナーからも率直な意見が寄せられている今、「学生による授業評価」が孕む論点をめぐって、落ち着いて誠実に議論すべき状況にあるといえるのではないかと。来年度以降、例示した論点について、さらには評価項目の内容についても、検討を重ねていくことにしたい。その際、令和3年度全国国立教育系大学学生関係理事/副学長・部課長連絡協議会の承合事項7において、本学が提案した「学生による授業評価について」に関する取組状況について、各大学からの回答や課題事項が参考になるだろう。そして、それをふまえて、全国国立教育系大学のFD担当者等との間で調査（意見交換会）を実施したが、そこで得られた多くの情報も来年度以降の議論を助けてくれるに違いない（『令和4年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書』(p.2)参照）。

## II. 第4期中期目標・中期計画及び令和5年度年度計画

F D推進委員会に係る第4期中期目標・中期計画及び令和5年度年度計画は、次のとおりである。

中期目標2教育 (3)	研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程) ⑦
中期計画09	現職教員の学び直しの機会を保障するために、大学院生の多様な学びのニーズや学びのスタイルに対応する学修方法や修学形態を考案し、実施する。
年度計画	全学的なF D活動に取り組み、授業改善を組織的に推進する。

(実施組織：大学院教務委員会、先端教職課程カリキュラム開発センター、F D推進委員会、教育改善推進室)

中期目標2教育 (5)	特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程、学士(専門職)課程) ⑨
中期計画12	教育行政トップリーダー、学校管理職、ミドルリーダー、新任教員という教職員の幅広いキャリアステージ及び多様な学び方に対応した教育課程を維持する。現職教員の学び直しの機会を保障するために、大学院生の多様な学びのニーズや学びのスタイルに対応する学修方法や修学形態を考案し、実施する。
年度計画	全学的なF D活動に取り組み、授業改善を組織的に推進する。

(実施組織：大学院教務委員会、先端教職課程カリキュラム開発センター、F D推進委員会、教育改善推進室)

### Ⅲ. 令和5年度の主なFD活動一覧

日 付	事 項
令和 5年 5月17日	FD推進委員会 (第1回)
令和 5年 5月31日	学生・教職員FD活動交流会 (第1回)
令和 5年 6月 8日 ～6月19日	ベストクラス選定科目の授業公開 (前期)
令和 5年 6月28日	学生・教職員FD活動交流会 (第2回)
令和 5年 7月20日 ～10月 6日	前期「学生による授業評価」実施
令和 5年10月25日	学生・教職員FD活動交流会 (第3回)
令和 5年11月7日	FD推進委員会 (第2回)
令和 5年12月	令和4年度授業科目における「ベストクラス」を公表
令和 5年12月22日 ～令和 6年 3月22日	後期「学生による授業評価」実施
令和 6年 1月25日 ～2月 1日	ベストクラス選定科目の授業公開 (後期)
令和 6年 1月26日 ～ 3月22日	「教職大学院実習科目の授業評価」実施
令和 6年 2月28日	学生・教職員FD活動交流会 (第4回)
令和 6年 3月 7日	FD推進委員会 (第3回)